

いま、核エネルギーへの認識が大きく変わってきた

核兵器禁止の国際条約が年内にも発効と言われています。ここに至る最大の貢献は、広島・長崎の被爆者の「二度と私たちのような苦しみを味わせたくない」という訴えでした。さらに、これに応えた各国市民の粘り強い運動の発展がありました。しかし、一方では中距離核戦力(INF)全廃条約の廃棄という歴史を後戻りさせる動きも生まれています。

2011年3月の東京電力福島第一原発事故を契機に、原発・化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が、世界的に進んでいます。原発が経済合理性に合わないことも明らかになり、金融機関が核エネルギーの軍事(核兵器)・平和(原発)利用に関係する企業への融資を行わないことが公然、と語られる時代になってきました。

しかし、安倍政権のように、いまだ「平和のための核抑止」、福島原発事故がなかったかのように「原発再稼働」などと叫ぶ国家もあります。

このような時に、時代を先読みし、政府・企業・研究者に警告し、環境・原発・エネルギー・地域経済再生は関連する問題として、先見性あるメッセージを発信し続けてこられた吉井英勝さんに、その奮闘ぶりとこれからについて語ってもらいます。



《プロフィール》

略歴:1942年生まれ、京都大学工学部原子核工学科卒業。

衆議院議員9期(原子力安全問題などで活躍)、著書『原発抜き・地域再生の温暖化対策へ』新日本出版社、2010年など

日時：**4月27日(土) 13:30~**

会場：**京都教育文化センター・103号室**

京都市左京区聖護院川原町4-13 Tel:075-771-4221

講演：**吉井 英勝さん**(元衆議院議員)

「『核』なき世界へー『脱原発』での奮闘を想起しつつー」

●資料代：500円

※なお、公開講座終了後、15:00から同会場で非核の会定期総会を開催いたします。
会員以外の方の定期総会への傍聴を歓迎します。